



人権啓発講演会「私達の生活と『人権』」

平成25年9月6日（金）山梨県・山梨県人権啓発活動ネットワーク協議会の主催による人権啓発講演会が富士河口湖町役場コンベンションホールにおいて開催された。講師には長年被差別部落の歴史を明らかにしてきた、長野県佐久市にある信州農村開発史研究所所長 斎藤洋一氏による「私達の生活と『人権』」という演題の講演である。

同研究所は、1978年頃に被差別部落事件が相次いだことから、部落の人々は抗議行動に立ち上がり、その中で「自分たちの部落の歴史を知りたい」という思いから、旧名主家を訪ねたところ、旧名主家には古文書がないことが判明。すでに古文書は、学習院大学に寄贈されていた。

部落の人々は、大学側に古文書を返してほしいという要求をしたが、大学側も当初は難色を示していた。しかし、部落の人々の熱意とその意義を理解し、大学側も返還に同意し、約2万点の古文書が村に返されることになった。

部落の人々は、村内に残されていた古文書とともに（合計約3万点）五郎兵衛記念館に保管することにし、同大学研究員の斎藤洋一氏を主任研究員に招き、1980年に村営施設として信州農村開発史研究所が設立され、以後、被差別部落の歴史を明らかにしてきた。

講演では、江戸時代の信州の被差別部落の人々は、おもに村や町を守る役割に従事しており、そのため、村・町から招かれて引っ越すこともあった。村・町を守る役割は危険で、被差別部落の人々は、いわば体を張って人々を守った。にもかかわらず、被差別部落の人々は差別された。斎藤氏は部落差別は現在もとなっておらず、信州に行って、次のことを学んだと。

- 1 部落問題は「自分は部落ではないと思っている人々の問題」
- 2 部落差別は命にかかる問題。世界の常識は「差別は、犯罪」
- 3 部落差別に「根拠はない」
- 4 部落差別（いじめも同じ）は「みにくく」「いやらしく」「いじましく」「汚く」「あわれな」な行為。また、「恥ずかしく」「こっけい」な行為でもある。

最後に斎藤氏は、部落問題は「他人（ひと）ごとではない」私達ひとり一人の問題。もちろん、そのほかの人権問題も同じ。すべての人が、生まれてきてよかったです、人生ってすばらしいと思える社会を実現するためには、「人権」をないがしろにしてはならない。と締めくくった。

山梨ブランチでは、人権移動教室、人権相談、人権啓発冊子等、様々な人権啓発活動を行なっております。詳しくはお問い合わせください。

国連NGO横浜国際人権センター・山梨ブランチ

代表 横山 隆史（全日本同和会山梨県連合会会長）

〒400-0831 甲府市上町 601-4 甲府市環境センター内 なでしこ工房 1階 TEL 055-243-8563